

JICA研修in小樽

～7カ国11名が参加～



9月14日(金)、JICA(国際協力機構)研修のため、

アジア各国の研修員が小樽開発建設部を訪れました。

この研修はアジア地域の道路事業等公共事業に携わる実務者が、公共事業の計画段階における住民参加及び住民移転・土地収用に関する環境社会配慮の実務に係る制度の提案ができるようになることを目標としたものです。今年にはネパール、スリランカ、カンボジア、インドネシア、ラオス、パキスタン、東ティモールの計7カ国から11名の参加となりました。

8月26日に来日した一行は、東京、岩手、帯広、札幌と各地で研修を受講、14日に小樽での研修となりました。

小樽開発建設部1階会議室で、北海道大学 公共政策学連携研究部 高野伸栄准教授から「小樽運河保存運動」についての講義を受講。小樽運河を埋め立て、道路を造ろうとする小樽市と、小樽運河の保存を訴える「小樽運河を守る会」との10年以上に渡る論争の経過と現在の運河について、パワーポイントやビデオを使っての説明がありました。

続いて、当部職員から「しりべしシステムを通じた地域協働の取り組み」について講義があり、後志の地域や行政からのリアルタイムな情報を、後志地域17か所に設けられたiセンターやiネットを通して道路利用者や観光客に提供するシステムの概要等について受講しました。



北海道大学 高野准教授 講義



小樽開建職員による講義

午後からは、市内の天狗山展望台や小樽運河を視察。職員の説明を受けながら、かつての運河が埋め立てられてできた道路や散策路と、当初の景色をそのまま残す運河とを見学しました。



市内蕎麦店で昼食
「はし」を上手に使う人が多かったです



運河プラザ前 建物内に「しりべしiセンター」があります



天狗山展望台から小樽市内を眺望



完食!



小樽運河を視察

この日の小樽市内は30度を超す真夏日。温かい地域から来日している研修員も、この暑さには驚いていました。

市内の視察を終え、一行はバスに乗り込み、小樽を後にしました。

この後、再び帯広に研修地を移し、9月27日に帰国となる予定です。